

# プロローグ

## 榎本家の蔵からお宝発見！

榎本家の「お宝」が発見されたのは1991年3月5日。榎本家の蔵が取り壊されるとの連絡を受け、急ぎよ巣鴨庚申塚の中山道沿いにあるお宅に駆けつけた。

榎本家は幕末から続く老舗の野菜の種子問屋である。すでに大部分の資料が解体業者によって蔵から運び出されていたが、そこには約150年間の種子屋の「歴史」がギッシリ詰まっていた。幸いにも5代目当主榎本泰吉氏のご好意により、これらの資料を当館に一括寄贈していただけることになった。

寄贈資料の数量は、南京袋8、プラスチックケース8、木箱7、行李4、ダンボール箱1、ビニール製種子袋1の計29箱(袋)の文書資料と、標本ビン・一斗桶・舂・和文タイプライターなどのモノ資料で、あわせて2トントラック1台分(総点数は推計5~6万点)であった。



1 榎本留吉商店(東京種苗株)の旧社屋  
二〇〇八年四月撮影 種子屋通りの面影を残す貴重な大正期の建築。



2 蔵から運び出された文書の山  
文化財係提供 一九九一年三月撮影  
のが大正六年(一九一七)築の石蔵。  
奥に見える



3 整理前の「ラ」の文書箱  
収納容器ごとにイ・ロ・ハ…と名付け、現状記録をとる。



4・5 エノモン会の作業風景  
袋や包みごとに記録した後、一点ずつカードにとっていく。根気のいる作業である。

## エノモン会ってなに？

榎本家資料は、燻蒸(殺虫・殺カビ処理)の後、1991年12月から資料整理を始めた。そこで誕生したのがエノモン会(榎本泰吉家文書調査会の略称)である。

現在のメンバーは、資料館友の会古文書サークルの阿部牧さん・嘉津山節子さん・小池陸子さん・須田景子さんの4名(伊藤美恵子さんは今年3月で引退)。

これまで約16年間、資料の現状記録(袋・束ごとの写真撮影、スケッチ、計測)⇒資料1点ずつのカード記入⇒中性紙封筒への保管の手順で、根気のいる地道な作業を進めてきた。現在整理を終えたのは、全体の約3分の2にあたる3万5千点余である。

今回は、その成果のほんの一部を紹介するにすぎないが、将来的には資料目録や資料集を刊行し、多くの人が資料を利用できるようにしたいと考えている。

“地域住民による地域資料の整理活動”として注目を集めているエノモン会にぜひご期待ください！

## 榎本商店の種子単笥に書かれていた野菜名など(一部)

1 まくわ瓜	7 四葉胡瓜	13 新橋真茄子	19 栗原トマト	25 亀井戸白瓜	31 極早生四季穫 金町小かぶ
2 発芽試験	8 加口節成胡瓜	14 茄子 つけ瓜	20 唐がらし	26 田端大白瓜	32 ふじ豆
3 63秋出荷サンプル	9 ニューメロン	15 東京ピーマン	21 青はぐら瓜	27 白はぐら瓜	33 オクラ
4 (未記入)	10 国分大長人参	16 豊年青瓜	22 白もち唐もろこし	28 東京べか山東	34 黒胡椒
5 (未記入)	11 春蒔青大根	17 赤ちりめんしそ	23 青ちりめんしそ	29 大葉ニラ	35 新大和西瓜
6 試験用サンプル	12 亀井戸大根	18 兵丹	24 早生小豆	30 つるな	36 大長かぶ